

気候変動研究シンポジウム報告*

目 次

1. 気候変動研究シンポジウムに関する経緯.....	関 原 彊
2. Second GARP について	岸 保 勘三郎
3. 気候変動の研究の現状と、ソ連邦におけるその展望について.....	倉 嶋 厚
4. アメリカ、カナダにおける長期予報と気候変動の研究の動向.....	朝 倉 正 勇
5. 気候変動のモデリングについて.....	広 田 勇
6. 気候変動研究の技術的アプローチ主として、COSPAR-WG 6 報告より.....	関 原 彊
7. 討論、及び、後記.....	関 原 彊

気候変動研究シンポジウムに関する経緯**

関 原 彊***

GARP 計画は1960年当初人工衛星があげられて全世界の気象観測が可能になるという見透しのもとに国連の宇宙開発平和利用の決議にはじまり現在 FGGE 計画が強力に進められているのは周知の通りである。それと同時に1970年前後から急激に全世界的な環境問題が叫ばれ出したのも最近の著しい事柄である。この問題は FGGE が目指している天気予報の問題に比し生物環境一般という点で更に広範囲の学問分野の協力を必要とするものであるがそれにもかかわらず長期間の気象その他の地球物理学的要素の環境という問題が中心となるといふ観点から WMO がイニシアティブをとるべきであるという議論が一般に容認されていると見てよい。この様な背景のもとに事実上の GARP の推進母体である JOC (WMO-ICSU Joint Garp Organizig Committee) では1973年3月ロンドンにおける第8回の会議において第2回全地球実験 (SGGE) の計画に関しての実施目標として人間活動の影響を考慮した気候変動の観視として議題に提出した。

この情報は JOC のメンバーである岸保教授を通じて我が国の GARP 国内委員会に持ち込まれ、我が国でも世界の情勢に立ちおくれぬようこの方面の気運を高めるべく何らかのアクションを進めるよう国内委員会でも意見が一致した。従来から気候変動の問題は話題としてはたびたび気象学者の興味の対象とはなってきたものではあるが、現在のかなりさしせまった社会情勢と FGGE の延長として全世界的に科学的な取扱いが可能になっているという技術的背景のもとに全くあらたな第1歩を踏み出そうというのが我々の理解でありこのための討論会を開くというのがその狙いであった。

具体的にはこの討論会は気象研究所と学術会議 GARP 部会の共同主催という形で1974年3月19日気象庁講堂で開かれた、参加者は約100名でなかなか盛会であった。以下に述べる一連のレポートはその時の各スピーカーが夫々その活された内容を中心として更にその後加筆して出来上がったものである。

* Symposium on the Study of Climatic Change

** Opening Remarks

*** K. Sekihara: 気象研究所